

平成30年度第1回枚方市環境基本計画策定部会における意見要旨

1. 市民・事業者アンケートについて

(1) 部会での意見と今後の方向性について

	部会委員の意見等	今後の方向性
1	10年後、20年後、30年後のめざすべき姿をイメージし、アンケートを行う必要がある。また、多種多様な考え方があるため、選択肢を多く示すことが必要ではないか。	・質問の各項目では、できるだけ具体的で、多くの選択肢を示し、幅広くニーズを把握していく。
2	SDGsの観点からの質問を設定すべき。	・まずは、質問の中でSDGsなどの認知度を把握する。
3	アンケートについては、前回の回収率55%を越えるよう、返答しやすい内容とすべきである。	・質問項目が過度に多くならないよう、項目を絞ってアンケート項目を設定する。
4	アンケートを工夫することにより、市民がボランティアが参加するきっかけづくりになればと感じる。	・質問項目の1つに「これまでに参加したことがある環境保全活動」や「日頃から取り組んでいる環境保全活動」を設定し、市民がボランティアに参加するきっかけづくりとする。
5	様々な年齢層で環境に対する考え方が異なることから、年齢層別による分析が必要。	・クロス集計により、各年齢層の回答傾向を把握していく。
6	アンケートにおいて、環境の取り組みは必要かと聞くと、ほとんどの方が必要と答える。このため、この先の枚方市の環境を考えて、何を優先して取り組むべきかを聞くことが重要である。	・アンケートでは、各分野における現在の環境の状況や今後の取り組みについて、重要度や満足度を把握できるよう質問を設定する。
7	事業者アンケートについては、事業者にとっても有意義なものとなるよう検討する必要がある。	・事業者アンケートにおいて、「行政に期待する施策」や「現状の重要度、満足度」に関する質問を行い、事業者のニーズを把握していく。
8	特に、将来のめざすべき姿については、若年層を中心に考えてもらう必要がある。	・ワークショップを高校生対象に実施。 ・クロス集計により、若年層の意見を把握できるようにする。
9	市民アンケートだけでなく、モニターアンケートやインターネットアンケートなども組み合わせると、評価が難しくなるので、アンケートの制度設計には注意が必要。	・市民アンケートのみ実施の予定。
10	アンケート未回答の理由や、そういった方々の環境に対する考え方を把握できないか。	・環境に直接関係しないイベント等においてニーズ把握を検討する。（「COOL CHOICE 普及啓発推進事業」との連携）

2. 市民ワークショップについて

(1) 部会での意見と今後の方向性について

	部会委員の意見等	今後の方向性
1	ワークショップについては、手法や内容、参加者についてしっかりと設計する必要がある。	・高校生をワークショップの対象とし、大学生にコーディネートしてもらう。
2	ワークショップについては、これからの時代を担っていく若い方中心に実施するよう工夫する必要がある。	・将来のひらかたの望ましい環境、それに向けて取り組むべき事項を市内在学の高校生に考えてもらう。